



「2学期のはじめに」

今夏も猛暑日が続きました。そのような夏休みに努力を積み重ね、ひとまわり成長した生徒のみなさんと再会でき、2学期を迎えられることに感謝します。

さて、みなさんの夏休みはどうでしたか？

今年から熱中症対策として、夏休みの部活動では自転車登校を認めました。熱中症の防止だけでなく、活動のパフォーマンスが向上した、水分を徒歩通学のときよりも多量に持参できた、通学時間が短縮された、家庭生活にゆとりが生じた、といったメリットがあったのではないのでしょうか。大変、好評でした。そして、何よりも高く評価したいことは、どの部員も交通事故にあわずに、交通ルールを守って通学してくれた点です。そこで、まだまだ暑い日が続きますので、体操服登校の期間である体育大会終了時まで、休日の部活動に限り、自転車登校を認めることにしました。引き続き安全運転で登下校してください。

夏休みに各部で頑張っている山中生の様子は、顧問の先生方から頻繁に報告を受けていました。この夏の各部活動の大会やコンクールの成績は、今年も非常に立派です。県大会、近畿大会、全国大会へと駒を進めた生徒の皆さん、お疲れさまでした。なかでも全日本中学校陸上競技選手権大会、男子共通走高跳で7位に入賞した石田 旭さんや兵庫県中学校総合体育大会で1位となり、兵庫県の代表として出場した女子4×100mリレーの皆さんは、山陽中学校の名前を沖縄まで届けてくれました。また、惜しくも上位の大会に出場できずに引退した生徒のみなさんにとっても、毎日、積み重ねてきた努力は貴重な財産です。結果がすべてではありません。お世話になっている多くの方々への感謝の気持ち、自分がやりたいと思って入部した部活動を最後まで一生懸命に取り組む態度など、3年生の思いを下級生はしっかりと受け継いで、頑張ってくれています。その結果、多くの部が夏の市民大会で好成績を収めることができました。この夏の部活動で頑張ったすべての山中生の真剣なパフォーマンスに心からの賛辞をおくります。

次に、勉強について、この夏休みを振り返ってください。

1学期終業式では、2人の教え子を紹介しました。自分ひとりで入塾手続きに来て、勉強のやり方を習得したから、と塾を辞め、その後、独力で学習に励み、好成績を維持した生徒の話。高等学校の先生から授業中の居眠りを叱責され、奮起して授業を受け始めたら数学が分かるようになった生徒の話。このふたりの生徒のように、当事者意識をもって学習に取り組めましたか。また、自分のレベルにあった学習内容に時間をかけ、焦らずにできることを増やすことが大切である、とも話しました。「やる気」が起こる前の自分のやり方でできたという「やれる気」を高める取組ができましたか。そして、喜多川 泰さんの著作から『家に帰ってから最初に座る場所で、自分の人生が決まる』という法則も紹介しました。『まずは自分を磨くための場所に座り、それを始めよう。それ以外のやりたいことはそのあとだ』と考える習慣をつけなければいけません、と。家に帰って来たら、まずは同じ場所に座って勉強を始めることができれば、必ず、成績は伸びることでしょう。みなさんは、家に帰ったら最初にどこに座って何をしますか？一度、自分の行動を振りかえってみてください。

以上の3つを夏休み前に話しました。これらはこれからも心にとめてほしい内容です。

今日から2学期が始まります。勉強にしても、部活や行事にしても主体的に取り組んでほしいと願っています。主体的とは、「何をすべきか、どう行動すべきかを自分が決める。決められていないこと、ルールにないことにも自ら踏み込む。そして、自分の行動と結果に対し、自らが責任を持つ意識が強い」ということです。よく似た言葉に、自主的があります。自主的とは、「誰かに言われたことや決められている枠組みの中で、自分から行動する。すでに役割ややるべきことが明確になっている状況での行動を指す。行動の結果に対する責任は、主に自分ではなく指示を出した側にあると認識している場合が多い」ということです。「自主的」と「主体的」はどちらも「自ら進んで行動する」という意味合いを持っていますが、自主的は、決められた範囲内で、誰かに言われる前に自ら率先して行動する様子を表します。一方、主体的に行動するということは、自分で課題を見つけ、その解決のために自ら考え、判断し責任を持って行動することを指します。

これからの時代を生き抜くために、自主的に行動するだけでなく、自分自身の頭で考え、主体的に学び、行動する山中生を目指してほしいと願います。2学期もまた、皆さんが大きく成長することを楽しみにしています。